

# 横須賀市中小企業景況レポート

第7号（平成26年7月号）

編集・発行：横須賀市経済部経済企画課  
〒238-8550 横須賀市小川町11  
電話 046-822-9523

市内中小企業の景況感を調査しました。

調査対象は、かながわ信用金庫と湘南信用金庫が従来から行う、景況調査先のうちの市内企業に加え、横須賀市及び横須賀市産業振興財団（以下「財団」と表記）がさらに追加調査しました。3か月に1回発行しています。

【市ホームページ（下記）からもご覧いただけます。】

横須賀市中小企業景況レポート | 横須賀市

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4402/keikyoreport/yokosukasikeikyuripoto.html>

調査対象：市内中小企業

調査企業数：196社（うち、かながわ信用金庫＋湘南信用金庫 調査182社）

調査期間：前期・・・平成26年1～3月の景況感（調査時点 平成26年3月1日）

今期・・・平成26年4～6月の景況感（調査時点 平成26年6月1日）

次期・・・平成26年7～9月の景況感（ " " ）

調査項目：景況、売上額、収益、雇用人員、資金繰り

業種分類：製造業、建設業、卸・小売業、不動産業、サービス業

集計方法：DI値算出による（次ページにDI値の説明あり）

## 景況及び4項目の調査結果（全業種）

\*DI値調査結果は裏面に記載

全業種の景況感は、前期の2Pから13Pとなり、11P悪化しました。

業種別では、製造業、建設業、卸・小売業が悪化となりました。

特に卸・小売業については、前回の19Pから28Pの大幅な悪化となり、47Pとなってしまいました。

一方で、不動産業は11P、サービス業は4Pとなり、それぞれ2P、12Pの改善となりました。

次期に向けては、不動産業が5Pの悪化、製造業が11Pのまま横ばいとなっている以外は、改善の予想となっています。

全業種の項目別で見ると、雇用人員は25Pから21Pとなり、4Pの改善となりましたが、相変わらず人手不足感が続いています。

その他の項目については、全て悪化となりました。

次期の予想については、全項目とも1～8Pの増減となり、ほぼ横ばいに近い結果となりました。

また昨年同期との売上額の比較については、5.6Pとなり、前回の3.3Pから改善しました。

DI 値・・・良い(多い) 変わらない(普通) 悪い(少ない)の回答のそれぞれが全体に占める構成比を求めます。次に、良い(多い)等の構成比(%) - 悪い(少ない)等の構成比(%)を計算した結果です。プラス値が大きいほど景況感が良く(好況) マイナス値が大きいほど景況感が悪い(不況)と言えます。

特に決まりはありませんが、このレポートは次の基準で記載しました。(マイナスは 表示)

良い：15P以上	↑	やや良い：6P～14P	↗
変わらない(普通)：5P～5P	→		
やや悪い：6P～14P	↘	悪い：15P以下	↓

## 業種別 調査結果と事業者の声

\* DI 値調査結果は裏面に記載

(1) 製造業 11 <やや悪い> ↘

景況感は前期より「良い」という声が減り、「悪い」という声が増えたため、DI 値は 13P の悪化し、11P となりました。

項目別は、全て悪化しましたが、特に収益が 25P、資金繰りが 19P の大幅な悪化となりました。

### 事業者の主な声

- ・取引先の海外製造とリストラにより、売上げが減少している。
- ・出荷数はあるが、利益が少なく伸びていかない。
- ・後継者不足で売りに出ている会社があるようだ。
- ・消費税増税による落ち込みと、販売先からの値下げ要請により売上げは減少しかけたが、営業努力によって横ばいを維持した。
- ・ビジネスマッチングで繋がった会社と交渉をしている。大手に依存せず、多くの事業者と取引先をしているので、景気の波は受けにくい。
- ・各取引先への細かな対応が、競合他社の追随を許さない結果となっており、1社あたりの受注金額の拡大に繋がっている。

(2) 建設業 0 <変わらない> →

景況感は前期より 19P 悪化し、0P となりました。

項目別では、雇用人員が 14P 改善しましたが、39P と依然として人手不足が継続しています。他の項目は全て前期から悪化してしまいました。

### 事業者の主な声

- ・消費税増税の影響により昨年末までは住宅着工件数も多く多忙であったが、1月以降はそれも落ち着いてきている。
- ・消費税増税に伴い、材料費の単価上昇による負担を強いられ、今後より一層の経費削減に取り組みつつ効率化を図り、売上げ増加を図りたい。
- ・売上げは増加傾向にあるが、人員に限りがあり、受注工事を選別している状況である。
- ・東京オリンピック開催決定による東京湾岸地区の再開発が大手ゼネコンを中心に活発化して来ている。他社が県外に出向く間に、地元の小口工事を取りこぼさずにやっていきたい。

(3) 卸・小売業 47 <悪い>



景況感は前期の 19P から、さらに大幅に悪化し 47P となりました。

項目別についても、全ての項目が悪化してしまいました。中でも売上額は前期の 17P から 43 となり、収益は前期の 19P から 47P と大きく悪化しました。

#### 事業者の主な声

- ・近隣の大型店に対抗できず、来店客は年々減少し、固定客は周辺の高齢者に限られている。
- ・コンビニの開店の影響が大きく、かなり厳しい状態である。配達等の強化を図るなど挽回策を練っていきたい。
- ・販売価格を上げ売上げは上昇したが、従業員の残業時間の増加により、収益は大きく減少した。
- ・人口の減少に加え、若者から高齢者までもが家庭で料理をせず、既成品の惣菜等で食事を済ませる傾向になっているため、LP ガスの需要が減っている。
- ・官公庁と米軍からの受注は不安定であるが、民間でカバーし、営業効果がようやく見え始めている。

(4) 不動産業 11 <やや良い>



景況感はわずか 2P ですが改善し、11P になりました。

しかし項目別では、収益が 2P の改善と概ね横ばいだった以外は、悪化してしまいました。

#### 事業者の主な声

- ・在庫物件の大幅な値下げもなく、順調に消化しており、現在は仕入れに力を入れている。
- ・消費増税で不動産売買の停滞を心配したが、落ち込みはあまり感じられない。
- ・多棟数現場を中心に手掛けているが、利益確保が可能なら 1 棟現場も積極的に手掛けていく方針である。
- ・消費増税の影響で、市場に出回る物件が少なく、仕入れは停滞気味である。
- ・市には、人口増加対策を急いでほしい。

(5) サービス業 4 <変わらない>



景況感は前期より 12P 改善し、4P となりました。

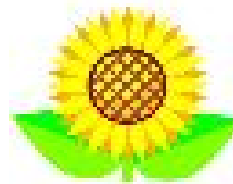
項目別では、雇用人員が 9P の改善となりましたが、依然として 22P の人手不足な状況です。他の項目は概ね横ばいでした。

#### 事業者の主な声

- ・消費増税による影響は、予想ほどはない。
- ・消費増税の影響で、単価の低い注文が多かった。客単価を上げるのは難しいため、リピーターが増えるように、質を落とさずサービス向上に努めていく。
- ・輸入価格の高騰で、原材料の値上げが続いている。増税に合わせて価格の見直しを行ったため、減収にはなっていない。
- ・安定的且つ利益率の高い受注先の開拓を図っている。
- ・市内のにぎわいについて、進捗が感じられない。

DI値 調査結果

前・・・前期 平成26年1～3月の景況感（調査時点 平成26年3月1日）  
 今・・・今期 平成26年4～6月の景況感（調査時点 平成26年6月1日）  
 次・・・次期 平成26年7～9月の景況感（ ” ” ）



業種別調査企業数(回答数)

(単位：社)

	全業種	製造業	建設業	卸・小売業	不動産業	サービス業
前期	193	47	38	49	11	48
今期	196	37	44	53	17	45
次期	196	37	44	53	17	45

(単位：ポイント)

項目	業種	全業種			製造業			建設業			卸・小売業			不動産業			サービス業		
		前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次
景況		景況全般について総合的な概況をお聞きました。																	
	良い(A)	23	18	18	30	24	19	37	23	20	16	4	11	27	29	24	13	20	22
	変わらず	52	51	59	42	41	51	45	54	66	49	45	51	55	53	58	66	64	65
	悪い(B)	25	31	23	28	35	30	18	23	14	35	51	38	18	18	18	21	16	13
	DI値(A)-(B)	2	13	5	2	11	11	19	0	6	19	47	27	9	11	6	8	4	9
	今-前、次-今	11	8		13	0		19	6		28	20		2	5		12	5	
売上額		製造業については、生産品を出荷した額をお聞きました。																	
	好転(A)	29	22	19	30	30	19	45	30	20	24	6	9	40	29	47	19	24	20
	変わらず	47	47	58	49	40	54	34	43	66	35	45	55	40	53	29	66	56	64
	悪化(B)	24	31	23	21	30	27	21	27	14	41	49	36	20	18	24	15	20	16
	DI値(A)-(B)	5	9	4	9	0	8	24	3	6	17	43	27	20	11	23	4	4	4
	今-前、次-今	14	5		9	8		21	3		26	16		9	12		0	0	
収益		売上から経費を引いた収益状況をお聞きました。																	
	増加(A)	22	15	15	23	14	14	32	18	16	16	6	9	27	35	29	19	18	16
	変わらず	54	51	56	58	51	45	42	52	66	49	41	49	55	41	47	62	62	66
	減少(B)	24	34	29	19	35	41	26	30	18	35	53	42	18	24	24	19	20	18
	DI値(A)-(B)	2	19	14	4	21	27	6	12	2	19	47	33	9	11	5	0	2	2
	今-前、次-今	17	5		25	6		18	10		28	14		2	6		2	0	
雇用人員		需要に対応できる労働状況をお聞きました。																	
	多い(A)	5	3	5	9	5	11	0	0	0	8	4	4	9	6	6	0	2	4
	適正	65	73	72	61	65	65	47	61	59	76	81	85	91	88	88	69	74	74
	少ない(B)	30	24	23	30	30	24	53	39	41	16	15	11	0	6	6	31	24	22
	DI値(A)-(B)	25	21	18	21	25	13	53	39	41	8	11	7	9	0	0	31	22	18
	今-前、次-今	4	3		4	12		14	2		3	4		9	0		9	4	
資金繰り		資金繰りが上手く行っているかを判断するためお聞きました。																	
	楽である(A)	12	8	5	19	11	11	8	5	0	4	4	2	20	19	6	15	11	7
	さほど苦しくない	69	68	73	62	59	57	79	77	84	65	60	66	80	68	88	70	76	80
	苦しい(B)	19	24	22	19	30	32	13	18	16	31	36	32	0	13	6	15	13	13
	DI値(A)-(B)	7	16	17	0	19	21	5	13	16	27	32	30	20	6	0	0	2	6
	今-前、次-今	9	1		19	2		8	3		5	2		14	6		2	4	

参考 昨年同期と現在の売上比較(回答 160社)

	企業数	今期構成比	(参考) 前期構成比
昨年と比べ「売上額」が増加(A)	59社	36.9%	37.5%
昨年と比べ「売上額」が変わらない、横ばい	51社	31.9%	28.3%
昨年と比べ「売上額」が減少(B)	50社	31.3%	34.2%
DI値(A)-(B)		5.6P	3.3P

